



テーマは ^わ環

環境の「環」です。
この字は「かん」以外に
「わ」とも読みます。
オオスミの仲間や
お客様・業界団体との
「わ」を表現しています。

THE 50TH ANNIVERSARY OF OSUMI



私たちは 地球に暮らす人々に『安全』と『安心』を
環境面から提供しつづけます

これはオオスミの使命です。私たちはこの使命を忘れることなく、地球環境を見守ってきました。

すでに人々は、限りある地球と共生することの大切さを、しっかりと認識しています。

いつの日か「環境破壊」や「地球温暖化」が過去の言葉となることを願って。

これからも私たちは真摯に環境と向き合っています。

オオスミは今年創業50年を迎えます。

創業50年を記念した特別なイヤーブックが出来ましたので、ぜひ最後までお楽しみください。

私たちが目指す道

Osumi Way

2018

ご挨拶



株式会社 オオスミ
代表取締役 大角 武志

皆さまには、平素より大変お世話になっております。株式会社オオスミ代表取締役を務めます、大角武志と申します。この度、2017年11月1日にオオスミは創業50年となりました。ここまで事業を続けてこられたのは、オオスミを支えてくださったお客様、関係省庁・自治体の皆様、協力会社の皆様、そして社員を始めオオスミで働いてくれたパートさん、アルバイトさん、派遣社員さん、そして歴代のOB・OG社員全ての方のおかげです。

様々な変化の中での50年

この50年で様々なことが変わりました。技術的な進歩は目覚ましく、生活や仕事に関わるあらゆる道具が変化しました。また、物の価値観や、人々の考え方も変化しました。変化があるところにビジネスの商機があるとよく言われますが、深刻な環境の変化もこの50年で起こりました。

「私たちは 地球に暮らす人々に『安全』と『安心』を環境面から提供しつづけます」

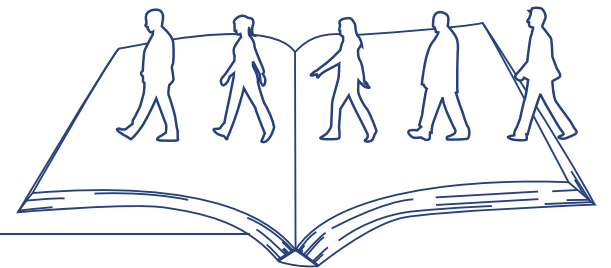
これがオオスミの使命ですが、世界的規模で考えますと地球の環境に関わる安全・安心はどんどん遠のいている気がしています。経済発展は悪いことではないと思いますが、海外で、開発に伴う環境保全が二次にされてしまっている現状を目の当たりにし何とかしなければという気持ちになりました。

私たちが目指す道

これらの現状から、海外での環境保全業務をこの十数年行ってきましたが、いよいよ平成30年(2018年)より、海外拠点(ベトナム国ダナン市)を設けることを先日決定致しました。

私たちは小さな会社ではありますが、専門技術を持ち、環境保全については50年の経験を持っています。海外での業務が事業として成功するかどうかは分かりません。しかし、「できることを、できる人が、できる時に行う」という私個人の信条に照らし合わせ、今、海外で私たちの技術を使命の達成のために使うことは決して遅くもなく、また早すぎもしないと考えました。

これからは日本国内での仕事を主体としながら、海外での仕事にも力を入れていきたいと思っております。このイヤーブックをお読みくださっている皆様には、是非、暖かい目で株式会社オオスミを見守り、またアドバイスをいただけましたら幸いに存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



Topics

トピックス



私たちは地球のドクター
OSUMI

ロゴマークの刷新

ロゴマークを決める過程では、自分自身への問いかけや社内ヒアリングなどを何度も行い、オオスミという会社を改めて見つめる良い機会となりました。

いくつかのデザイン案から、社内アンケートを経て決定した新しいロゴは、オオスミの使命を込めたデザインで、カラーの瑠璃紺は地球・空・水の色で、「正確さ」「物事を深く見る姿勢」を表しています。

OSUMIの若草色の葉っぱには、常に新鮮で前向きな目を持ち成長し続けたいという思いを込めました。私たちの使命が地球環境に貢献することを感じ取っていただけましたら幸いです。

創業50年を機に、私たちオオスミのロゴとユニフォームを一新します。

“地球のドクター”のユニフォーム

ユニフォームというのは単なる作業着ではなく、外部の方々から見て「爽やか」「清潔」「安心」、そして「憧れ」というイメージを持っていただける大事な要素だと私は考えています。

特に、子どもや学生の皆さんから「こんなユニフォームを着て働きたい」と思われることに重点を置きました。当然、作業性を落としてはいけません。単に「汚れが目立たない」「しわが目立たない」といったマイナスをカバーするものではなく、むしろいつもきちんと扱ってもらえる大事な道具の一つとして捉えていけたらと思っています。ある世界的な自動車メーカーの整備士や工場働く方たちの作業服は「白」だったそうです。油にまみれてしまうかもしれない、機械で汚れるかもしれない。それでも白にした理由は、命を預かる車のお医者さんを目指しているから。そして常にきれいにしておくことを念頭に置いているから。そう聞きました。

私たちオオスミは環境保全やエネルギーソリューションを提供する会社です。そういう意味で選んだ色は青。私たちは“地球のドクター”として、これからももっとも世界中で活躍していきたい。そのような思いを込めたユニフォーム変更としました。

もう一つ。このユニフォームには「Order yours. Help others.」というワッペンが付いています。



これは、子どもたちのスポーツチームなどのユニフォームとして寄付される仕組み「Uni Hope」という活動にオオスミが協力している証でもあります。

最初は、着ている本人も、見ている皆様もどこか落ち着かないかもしれませんが、やがて青のユニフォームを見たら「地球のドクター集団が来た!」と仰っていただけるようになりたいと思います。



モデル 取締役 鈴木典子

特別コラム - オオスミのベトナム進出に向けて -

ベトナムからフンクアンカイ氏が皆様へ向けてオオスミをご紹介します

Hà Nội

オオスミは2015年7月から2017年7月までの2年間、ベトナム国においてJICAプロジェクト（ベトナム国簡易測定法を用いた省エネ診断技術及び省エネ効果の普及・実証事業）を実施しました。このプロジェクトにおいて、現地企業として協力していただいたのが、ベトナム国の電力システムにかかるビジネスリーディング企業 EDI (ELECTRICAL DEVELOPMENT INVESTMENT JSC) 社です。今後のオオスミのビジネス展開にもご協力いただくことになっていきます。

EDI社のカイ社長から、イヤブックスの創業50年記念号によせて、ベトナム国でのビジネス実施への期待を込めたコメントをいただきました。

In implementing the JICA project for 02 years, we appreciate working with Osumi Co., Ltd at Vietnam with professional and serious working morale, and we are sure your drive and dedication will make this business a success.

Vietnam market is very open to expand every business. Vietnam is regarded as the "Destination for Investment" based on its unique advantages of location, resultant economic potential, political stability, rich human and natural resources. The economic fundamental structure is shifting towards industrialization and modernization; with many environment projects need your technology. Vietnam is promoting the projects using saving energy technology, towards a green environment in industrial market. We expect your business will be booming in no time!

Opening your own business are a milestone, we are looking forward to doing business with OSUMI Co., Ltd with the hope to bring Japanese technology to all over Vietnam. We will try our best to help you obtain appropriate support when it necessary, in the implementation of energy saving business with the legal system, the government in Vietnam, as well the needed basic from EDI whenever OSUMI Co., Ltd required, together with equal terms based on the MOU.



Message

ELECTRICAL DEVELOPMENT INVESTMENT JSC 社
代表取締役 フンクアンカイ

JICA普及実証事業を終えて

JICAプロジェクトを通じ、オオスミと共に仕事ができたと感謝しています。オオスミの持つ専門的な知見、献身的な仕事への姿勢がとても印象的でした。それらは今後のベトナムでのビジネス展開でも有効であると思います。

ベトナムビジネスの可能性

昨今、ベトナムのマーケットは成長市場となっており、いわゆる“投資対象国”と呼ばれています。それは（東南アジアの中心、海岸線沿いという）土地の利点、経済成長のポテンシャル、安定した社会と政治、豊かな天然資源と人材などの特徴があるからです。

また経済発展により工業化と近代化が急速に進んでおり、環境への負の影響が懸念されているようになってきています。そのため、様々な環境対策実施が期待されており、特に省エネ技術、グリーン工業化などへの関心が高まっています。

このような需要から、オオスミが今ベトナムで計画している環境ビジネスは急成長すると期待できるでしょう。

協働ビジネスへの期待

EDI社はオオスミと協働してビジネスを開始し、日本の最先端の技術をベトナムに普及させることを期待しています。EDI社とオオスミはビジネス協力にかかるMOUを結んでおり（2017年5月署名）、オオスミが必要とすることに最善を尽くして協力することをお約束します。ベトナムの法律に則った省エネ診断の実施等、また経営に必要な手続き等、いつでもEDI社は全力でオオスミの協力をします。



フンクアンカイ氏 Profile

EDI社・社長。EDI社はハノイに本社があり、起業から11年。カイ氏の手腕と共にベトナム・ビジネス界において大きく名を広めはじめています。

カイ氏は大の親日家で、3年前にご家族と共に来日の際には、京都・大阪・横浜・東京などを訪れ、日本料理に感銘を受けたとのこと。特に気に入りはお寿司。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催! Vol.4

東京オリンピック・パラリンピック ~ 環境分野でもレガシーを ~

今から半世紀以上前の1964年、アジア初となる夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されました。この年は富士山レーダーの完成、日本武道館の開館、日本人の海外渡航の自由化など明るいニュースがありました。また、高度成長期でもあったこの時期に進められた東海道新幹線開通、首都高速道路整備、地下鉄整備などのインフラ整備は、現在でも利用されている交通基盤となっています。

2020年に向け、私たちは既に東京オリンピック・パラリンピックに関わる環境調査のご依頼を受け、開催に向けた事業に携わっており、「持続可能な環境に優しい都市」となった日本の東京の良さを伝えられることを楽しみにしています。



一方、我々の仕事は開催日当日迄で終了することはないと考えています。例えば、施設の改修、再利用などに関わる我々の仕事は、開催期間後も続き、良い形で次世代に引き渡せるよう業務に臨みたいと思います。東京オリンピック・パラリンピック終了後、数年、数十年が経過しても「環境分野でもレガシーが築かれた大会だった」と人々に環境意識を与えられるような大会になるよう、環境面から関わっていく私たちがいたいと思います。



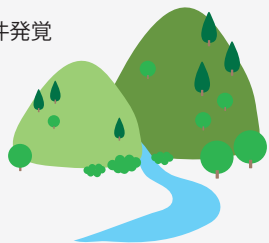
50年を振り返る

19世紀後半の明治時代初期から長きにわたって発生した足尾銅山での公害事件は、銅山の開発による有害物質が周辺環境に著しい影響をもたらしました。日本の公害問題の原点は、この「足尾銅山鉍毒事件」にあるとも言われています。ここでは、環境に纏わる社会の出来事とオオスミの半世紀を年表で振り返ります。

社会の出来事

1967-68

- ・公害対策基本法が施行
- ・PCBによるカネミ油症事件発覚
- ・大気汚染防止法が施行



1970-72

- ・水質汚濁防止法が施行
- ・環境庁設立
- ・労働安全衛生法が施行
- ・PCBを含む電気機器を新たに電路に敷設することが禁止

1975

- ・吹き付けアスベストの使用が禁止



1985-1987

- ・ウィーン条約（オゾン層保護）が採択
- ・ミッドウェイの不法投棄事件から日本におけるアスベストの社会不安が増大
- ・モントリオール議定書（オゾン層破壊物質削減）が採択、先進国だけでなく、途上国も含めた規制を実施

1992-1993

- ・環境と開発に関する国連会議（地球サミット）が開催（リオデジャネイロ）
- ・環境基本法が施行



2001-2002

- ・環境庁から環境省へ再編
- ・PCB特別措置法が施行
高濃度PCB廃棄物の計画的処理完了期限より前の処分が義務付け
- ・土壌汚染対策法が施行

2004-2005

- ・残留性有機汚染物質の製造及び使用の廃絶・制限、排出の削減、処理を目的としたPOPs条約発効
- ・クボタ・ショック、日本全国でアスベスト公害問題が再燃
- ・京都議定書が発効
国際社会が協力して温暖化に取り組む世界初の取り決め

2011

- ・福島第一原子力発電所事故による放射能汚染

2012

- ・胆管がん問題が発生し、特定化学物質の規制が強化

2015

- ・パリ協定採択
温室効果ガス削減に重要な途上国が参加したはじめてのルール

2016

- ・化学物質のリスクアセスメントの義務化に伴い、作業環境測定の需要が増加

オオスミの歴史

1960

1968

- ・水処理薬品の製造および販売を目的に有限会社大角化学を設立

1960年代

創業者の大角勝彦が横浜市で事業を開始した頃は、資材も社屋も何もなかったため全て手作りで分析室を作りました。



1970

1970-77

- ・公害防止(水質・大気)関連の測定、分析およびコンサルティング業務を開始
- ・環境計量証明事業登録
- ・作業環境測定機関登録



1970年代

横浜市で環境分析を立ち上げた頃のお客さまは相鉄線沿線の企業を中心に、塗装工場が多く、色のついた水が川に放流されている時代でした。

1980

1987-89

- ・アスベストに関する業務を開始
- ・土壌汚染調査業務の拡大環境
- ・環境アセスメントに関する業務を開始

1980年代

豊田中央研究所より業務の権利を譲り受け、東京営業所を開設しました。後に本格的に東京地区へ進出していく足がかりとなりました。

1990

1992

- ・本社、営業所、研究所の総合ビルを横浜市瀬谷区五貫目町に建設
- ・株式会社大角化学から株式会社オオスミに社名変更

1990年代

アスベストや土壌汚染について分析だけではなく測定・調査・コンサルティングと一貫したサービスを首都圏を中心に全国で展開しました。



2003

- ・創業35周年
土壌汚染対策法指定調査機関登録(環境省)



2005

- ・海外業務開始

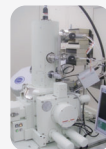


2007

- ・地球温暖化対策コンサルティング・調査業務を開始

2008

- ・走査電子顕微鏡システムを導入、材料分析業務を開始



2000

2009

- ・環境部長(総合環境マネジメントサービス)・ゆあらぼ(SEM等による総合技術サービス)業務を開始



2011

- ・放射線測定のため福島支店を開設
- ・放射線量率測定業務・放射能(核種)分析業務を開始

2013

- ・こらぼ(試験評価・開発研究サービス)業務を開始



2015

- ・住環境情報レポートの販売を開始

2017

- ・創業50年





創業50年、胸に浮かぶ、あたたかい声・ありがたい声

取締役 鈴木 典子

創業50年。私たちがここまでやってこられたのはお客様からの「声」があったから。不思議なタイミング（絶妙なタイミング？）で頂いてきた「声」を振り返ってみました。

転機はいつもお客様の言葉から

創業当時は「有限会社大角化学」という社名で工業薬品を細々と販売していました。

ある日大手メーカーの営業の方がわざわざ訪ねてきて、「我々の商品を清掃工場や水処理場に販売しませんか」と誘って下さったのです。これが第一の転機。

昭和45年頃から一般の工場の排水規制が始まり、お客様から「社名に化学とつくんだからわかるだろう、やってくれ」という「声」を頂き、分析業務を始めました。これが第二の転機。

それから10数年。ある建設コンサルタントのご担当者より「自分たちの業務を手伝ってくませんか」という「声」を頂き環境アセスメント業務を開始。今取り組んでいるエネルギー関係の仕事も、海外に関する仕事も、ふとしたタイミングで「オオスミさんやってみませんか?」と言って頂いたありがたい一言から始まっています。

これからも私たちはお客様の「声」を伺い、チャレンジをし、より広い分野で環境改善のお役に立てるようにしていかなければならないと感じています。



株式会社オオスミ、50年間の分析手法の変遷

創業50年を迎え、これまでの株式会社オオスミにおける分析手法の変遷について水質分析を中心に振り返ってみました。オオスミで行っている環境試料の分析の多くは、「公定法」と呼ばれる国際機関、国家若しくはそれに準ずる公定試験機関、研究所において指定された方法で行っています。水の分析についていえば、日本工業規格(以下、「JIS」という。) K0102 工場排水試験方法や環境省(庁)告示などによる試験方法が該当します。

次々と導入してきた分析機器

オオスミでは、1970年頃から公害防止関連の調査・測定・分析及びコンサルティング業務を開始し、現在に至っています。

1972年に微量金属分析のための原子吸光度計が導入され、1976年には有機化合物分析のためのガスクロマトグラフが、1988年には、陽イオン・陰イオンの分析のためのイオンクロマトグラフが導入されました。1993年に行われた水質環境基準の改正では、人の健康の保護に関する環境基準に関する項目の大幅な追加があり、その対応のため、1993年～1995年にかけて、ガスクロマトグラフ質量分析計やICP発光分光分析装置などの大型分析機器の導入も行われました。この改正では、新しい測定法の採用とともに、固相抽出法やパージ・アンド・トラップ法のような測定対象物質の新たな濃縮法が採用され、測定する濃度レベルもppm(mg/L)から

ppb($\mu\text{g/L}$)へと変化し、分析に使用する水や実験室の環境にも気を配る必要が生じ、苦勞させられたことを思い出します。また、測定対象レベルが微量～極微量になったことで、測定精度の確保が重要な要素となり、「精度管理」の重要性が増してきたのもこの頃からはないと記憶しています。さらに、1998年には、「外因性内分泌かく乱化学物質調査暫定マニュアル」が発行され、「環境ホルモン」の分析が目ざされ、高性能分析機器と高度な分析技術の要求が高まりました。

質の高い分析結果を提供し続けるために

その後も、水質環境基準や排水基準検定方法、JIS K0102などの改正は随時行われております。基準項目の追加、基準値の変更など、また最近では、グリーンアナリティカルケミストリー(環境負荷や健康影響物質の使用の削減、エネルギーの削減を目指した分析方法)への指向にとまない、新たな分析手法も導入され、それ

らに対応するために、新たな設備の導入や高度な技術、そして、その結果としての質の高い分析結果の提供と環境や健康への配慮が要求されるようになってきております。

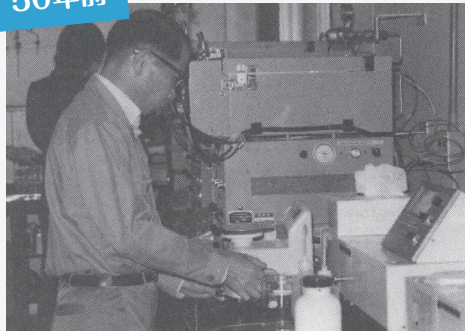
設備の充実と高い技術力の獲得により、質の高い分析結果を提供するとともに環境や健康への配慮により、オオスミが目指している地球に暮らす人々への『安全』と『安心』の提供を、全社一丸となって取り組んでいきます。

水質分析における主な公定法の変遷は、オオスミホームページをご覧ください。
<http://www.o-smi.co.jp/water/history.html>

QRコードをご利用ください。



50年前



昭和のガスクロマトグラフ分析風景

写真でみる
分析手法の変遷



現在



ガスクロマトグラフ



感熱紙での出力型のガスクロマトグラフ



ガスクロマトグラフ質量分析計(磁場型)



オオスミ役員メッセージ

環境を語る

長く環境業界に携わってきたオオスミの役員に環境に携わる仕事をする上で、大切なことは何か、メッセージを頂きました。



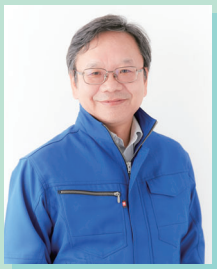
今後の環境業界について

取締役
田口 和男

現在は景気が良く企業の業績も良くなっているので、当分の間は税金対策も含めて各企業はそれぞれが抱えている負の遺産（PCB、アスベスト、土壌汚染等）の処理や対策を推進していくものと考えられます。特にPCBは処理期限が定まっており、必ず実施しなければなりませんので、処理や対策の駆け込み業務が集中するもの

と思われる。建築業界では、2020年のオリンピックを境に景気は下り坂になっていくとの見通しを持っているようです。そうなりますと、対応期限が決められたPCBはともかく、企業が抱えている環境問題へ取り組む余裕を保てるかどうかは非常に不透明です。その時、我が業界の活動の軸は、自然災害対策系（地震、津波、豪雨、洪水、台風、高潮、竜巻、雷etc）と地球温暖化対策になってくると思われます。なお、環境業界として取り組みやすいフレームワークとしては、地球温暖化対策を進め、それが異常気象災害を軽減する意味において災害対策系にも寄与するという視点であろうと思われます。2016年に地球温暖化対策の新しい国際ルール「パリ

協定」が発効し、2030年度までに26%（2013年度比）、2050年度までに80%の温室効果ガス（CO₂）の排出削減目標が公表されました。今後、企業もCO₂削減に向けて社会的貢献（CSR）や持続可能な開発目標（SDGs）の推進が求められます。政府は、各自治体や事業者に対してCO₂削減ポテンシャル診断や施設の改良・更新を促す施策を展開しており、この機会への積極的な取り組みが業界の業務拡大に向けた推進力になるのではないかと考えられます。



誰のための環境かを考える！

取締役
高羽 泰久

環境問題を考える際、「誰のための環境」という視点を明確にしなければなりません。「誰」とは、人間の場合もありますが、生息する動植物、地域や地球が対象の場合もあります。また、人間についても利害関係によって様々な立場の違いがあります。したがって、「誰」という対象の違いにより、トレード・オフの関係になるこ

とをあらかじめ認識しておかなければなりません。「四万十川の清流は素晴らしい。全ての川が清流になれば良い」という人がいます。これは正しい見解でしょうか？清流に棲むイワナやヤマメが善、比較的汚れた水にも棲める鯉や鮒は悪なのでしょうか。富栄養化は様々な環境問題を引き起こしますが、貧栄養化による餌料環境の変化は、アサリ等の貝類の減少の要因として挙げられています。「良い環境」とは、どういうものなのでしょうか？漠然として難しい問題ですが、「〇〇にとって良い環境」とすると、少しだけ方向が定まってくるような気がします。その際、トレード・オフとなる利害関係者への対応方針を定め、負の影響を削減していくことが求められます。このような考え方は、以前から言われていたことであ

り、環境に携わる者として当たり前のことですが、頭ではわかっていても、いつの間にか「誰」がわからなくなったり、トレード・オフのこともなおざりになったりしてしまいます。世の中は大変なスピードで多様化しています。持続可能な社会の実現に向けて、環境問題は多様性が最も重要です。環境に関わる者は、「誰のための環境」という点について客観的に評価できる力量が益々大切になってくるのではないのでしょうか。



核リスクは回避できるか！

取締役
内山 裕允

「環境問題」を「人間の活動による汚染や破壊が人間に悪影響を与えるもの」と定義しても、その範囲は膨大になる。私が今世紀においても最も大きなリスクの1つと思うのは核兵器における放射能の脅威である。私は、世界史上初めて原子爆弾が投下された昭和20年、広島を中心地で出生し、20年以上に渡り原爆ド

ム近郊で生活してきたため、被爆時の恐怖や残酷な光景を目にしてきた。70年以上経過してもなお、後遺症に悩む多くの知人がいる。東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故や、北朝鮮に端を発する核・ミサイルへの脅威など、今なお核の脅威は身近に存在している。21世紀は、この「核」に怯えながら生活を強いられる「核怯時代」ともいえる。毎年8月6日、広島の平和公園で「平和の式典」が行われ、世界中に「核廃絶」をアピールしているが、それを実現するのは容易ではない。現実的な対応策としては、できるだけ被ばくを避けることや「医学的な処置」であろう。現在、「がん」の治療技術は格段の進歩を遂げ、「怖く

なくなった」と言われるように、核も怖くないといえる治療技術が確立されれば「安心」のレベルは相当向上すると思われる。「被爆地住民として検体」を提供した者として、被ばくしても回復できる医療や、医薬の開発に期待したい。「環境リスク」の多くは人間の知恵によって解決できるものと思う一方、「環境対策」は万が一を考慮して、事前にあらゆる角度から対策を講ずるべきであると考え。今は「世界中の平和を願う人たちが結束することを切に望むしかない。

環境省

モニタリングサイト1000の野鳥

環境省が行っているモニタリングサイト1000は、全国1000カ所で100年間行うことを目指した長期モニタリング調査プロジェクトです。様々な生態系分野で調査が行われており、オオスミでは植物相、鳥類などの調査を月1回行い調査状況を報告しています。

ジョウビタキは冬鳥で秋に日本にやってきます。オスとメスでだいぶ見た目が違います。つぶらな瞳がかわいい野鳥です。

ジョウビタキ (メス)

身近な野鳥。小さな鳥というイメージがあると思いますが全長は14cmほど。至近距離で出会った時、意外と大きいんだなと感じたことがあります。

スズメ

モニタリングサイト1000の調査地では、毎年のように雛を連れて姿を見ることが出来ます。1年を通して見られる常連さんです。

カルガモ

カワセミのオスとメスの見分け方は下の嘴がオスは黒く、メスはオレンジです。カワセミの羽のきれいな色は構造色により輝いているように見えるのだそうです。

カワセミ (オス)

山間の溪流や付近の岩場でよく見られます。波型のように飛ぶのが特徴的です。同類のハクセキレイは都市型で町中でも普通に見られます。

キセキレイ

ツグミは冬鳥で晩秋に日本にやってきます。少し歩いては止まり、少し歩いては止まりを繰り返すので、だるまさんが転んだをやっているかのようです。

ツグミ

「わ」 人との繋がり

テーマ「環」には「わ」という意味も含まれます。ここで、オオスミの築いてきた業界との「わ」、オオスミ社内での部署間での「わ」にスポットを当ててご紹介いたします。

業界のわ

環境計量証明業界の発展のために

分析技術グループ
グループ長 平澤 智弘

我々オオスミは、創業50年となりました。これまで、数十年間継続して環境計量証明事業の業界で本当に様々な活動をしてきました。その中の1つとして、業界団体での活動を積極的に行ってきました。

オオスミは、全国的な展開をしている日環協（一般社団法人日本環境測定分析協会：JEMCA）や神奈川県を中心に活動している神環協（一般社団法人神奈川県環境計量協議会）に発足当時から正会員として加入しております。

これら日環協などの業界団体は、環境測定分析に関する知識及び技術を普及し、環境計量士をはじめとする環境測定分析に携わる者の資質を高めるとともに、環境測定分析事業の適正な管理の推進を図ることにより、環境測定分析に対する社会的な信頼性を

を高めることを目的としています。（日環協HPより引用）

積極的な交流で貢献

社長の大角が両会の理事に就任したり、分析技術グループから複数の委員会に参加したりするなど運営に携わっています。

また、毎年開催される日環協 環境セミナー全国大会への技術発表や参加を行っています。

さらには、日環協や神環協の活動目的でもある技術力向上のために行われるクロスチェックや精度管理事業に前向きに取り組み、分析技術の向上や腕試しに活用しております。



この業界団体での活動を基にして、同業他社の皆様と会社同士の繋がりはもちろん、環境分析調査に携わる者同士が会社の枠を超え、技術者としても繋がっていくことを望んでいます。

オオスミは、神奈川県内の事業所ですがこの業界団体を通じて全国に波紋が広がるように「わ」を大きくしていきたいと思っております。

今後も、環境計量証明業界の発展のためにも業界団体をより盛り上げていけるように活動していきます！

【関連業界団体】
・日環協 URL: <https://www.jemca.or.jp/>
・神環協 URL: <http://www.shinkankyoku.com/>

営業グループ・技術グループ座談会

部署のわ

お客様のニーズに「タッグ」を組んで「取り組みました！」



鈴木取締役(左)
営業グループ:大山(右手前)
分析技術グループ:海野(左手前)
分析技術グループ:植田リーダー(右奥)

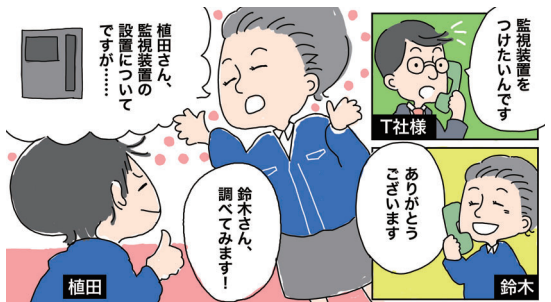


大山:今日は「わ」がテーマということで、営業と技術グループが協力してひとつの案件に取り組んだ事例についてお話を聞かせてください。最初に、どのようなお客様からのニーズがあったのですか。

依頼を受けてすぐに調査開始を依頼

鈴木:放流水の分析を定期的にご依頼頂いているT社様より、有機汚濁物質を常時監視する装置をつけたいとのご相談があったものです。その装置で異常値を検出した場合に警報を出して放流先を切り替えたいと。

最初は装置メーカーを紹介するのが良いのではないかと思います、お付き合いのある代理店に問い合わせをしました。装置メーカーが持っているエビデンスをつけて販売すればよいと思っていました。



植田:その段階でどんな装置が適当かという相談が鈴木取締役よりあり、推薦できる装置を調べました。そこで、いくつかある常時監視装置のうち、UV（有機物が紫外線を吸収する性質を利用し、その吸収量から有機物

濃度を算出する仕組み）で有機汚濁物質を測定する装置を推薦することとしました。なぜならUVはJIS（日本工業規格）による常時監視装置の公定法として設定されているので、有機汚濁の指標として信頼性が高いと考えたからです。しかし装置メーカーから、個々の排水の有機物の特性があるため、工場排水や環境水の測定項目として用いられるCODMn（化学的酸素消費量：水中の有機物の含有量を示す指標）とUV測定値の相関関係を調べる必要があるとの連絡を受けました。



大山:そこで装置を設置する場所で実際に流れている水を採取して実サンプルを分析し、相関性を調べる対応をする事となったのですね。

植田:そうです。分析の対応をするにあたり、CODMnの分析経験の豊富な海野さんに協力をお願いしました。



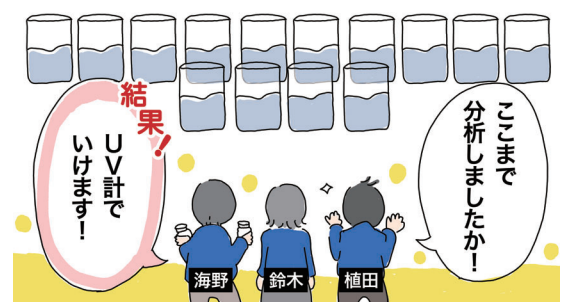
海野:植田リーダーからこの業務にかかわるよう要請がありました。JISの試験方法にあるUVを測定することが初めてだったので、JISを読み込み、条件と合っているかどうかの予備試験を行うなど十分な事前検討を実施しました。お客様からご依頼頂いたのが暮れも押し迫ったところで、年始までに結果を出さないといけないという時間が限られている中、大変なところもありましたが、やったことがないことにチャレンジするのは少しワクワクしました。

部署間の協力から最適な提案が

大山:結果はどうだったのですか?
植田:数十検体のサンプルを分析し、CODMnとUVの値

から散布図を作成し、相関係数（1に近いほど、密接な関係がある。）を算出しました。その結果、相関係数は0.7以上となり、CODMnとUVの間に高い相関があるという事を証明する事ができたので、UV計を有機汚濁の常時監視装置として採用することが決まりました。

鈴木:お客様と装置メーカー、代理店、技術への展開など交通整理も大変でしたが、きちんとした結果をもって最適な装置をご提案できたことは嬉しかったです。



植田:先ほども海野さんが言っていました、技術者としてこれまで行なったことがないことについて文献や資料を調べ、原理を理解することで自分自身も勉強になりましたし、楽しいと感ずることができました。

大山:常時監視する必要がある現場で、常時監視装置や迅速分析法のような現場対応が想定される方法と公定法との相関性を算出することは、今後、様々な現場に応用できそうですね。

鈴木:そうですね。常時監視装置が測定できる項目そのものでなくても、似た項目で相関性を測ることで可能性が広がりますね。

植田:後日、お客様の所へ訪問し、最終的に現場にUV計が設置されていたことを目にしたときは、分析技術者としての醍醐味を味わうことができました。

大山:ありがとうございました。こういった連携でこれからもお客様の課題を解決する仕事を多く手掛けていきたいですね。



環境との繋がり / あなたにとって環境とは？ 先輩編



多様化する「環境問題」
 福島支店
 支店長代理 星 敦彦

2018年に
 勤続35年！

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波影響により、壊滅状態に陥った岩手県、宮城県のがれき処理場の環境モニタリングを当社で対応していたこともあり、東北支店が開設され、平成25年7月から赴任を開始しました。現在は福島県を拠点に原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する活動を行っています。

私が入社した頃はまだ公害防止の時代であり、『公害被害を無くしたい』という思いで分析技術・測定技術の習得に勤しんでいました。

時代変遷に伴い『公害問題』から『環境問題』に考え方が変化中、当社でも環境調査業務の対応を開始したことに合わせ、多様化する『環境問題』に接する機会を得ることができました。

しかしながら、福島での業務は、分析・調査・測定技術を活用する業務とは異なり、住民対話をとおして合意形成を図っていくもので、住民1人1人の考え方の違いが『環境問題』の対処法を複雑にしています。

除染作業が終息しつつある状況ではありますが、さまざまな環境阻害因子が未だ存在し、対象市町村の住民帰還率は上がらない状況であります。今後も『環境問題』としての対処の在り方について、継続的に考える必要があると実感しています。



私が環境を仕事にした理由
 調査第二グループ
 リーダー 鮫島 憲一郎

2018年に
 勤続15年！

私が小学生だった頃、台風が接近して暴風警報が出ると学校が休みになることから、天気に興味を持ち、天気予報を見るのが日課になっていました。そんな不純な動機でしたが、そこから理科が好きになり、大学でも地学を専攻していました。

地学を勉強していく中で、少しでも地球環境を守るための役に立てればという思いが芽生えたことで、現在は大気や騒音・振動など公害に関する調査を日々行っています。

現在は回復していますが、子どもの時にぜんそくの持病があり、苦しい思いをした記憶があります。私も子の親になり、きれいな空気を子どもたちに残すことが出来れば、子どもたちに私と同様の苦しい思いをさせなくて済むのではないかと考えています。

そんな未来を子どもたちに残すことが出来るように、今の仕事を精一杯やっていきたいと思います。

二人合わせて、
勤続50年のベテラン先輩！！



オオスミスタッフが自分の好きな「環境」を撮影しました。



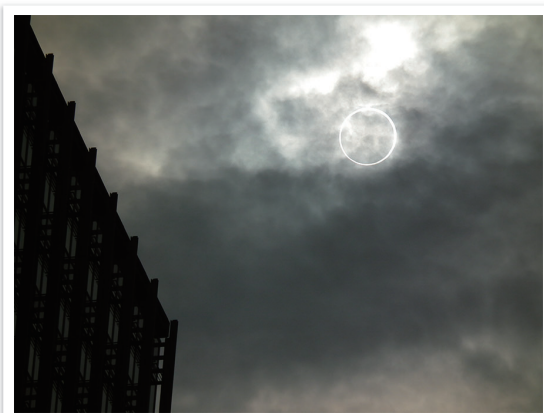
富士山の麓 永島実さん



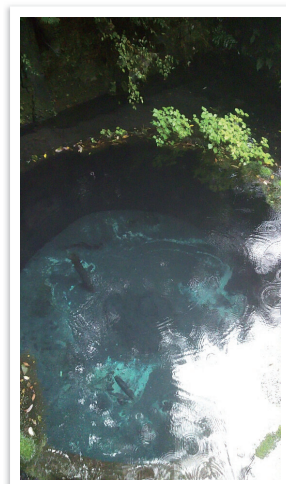
川遊び 大角武志さん



まるいもの3連発
 高橋正一さん



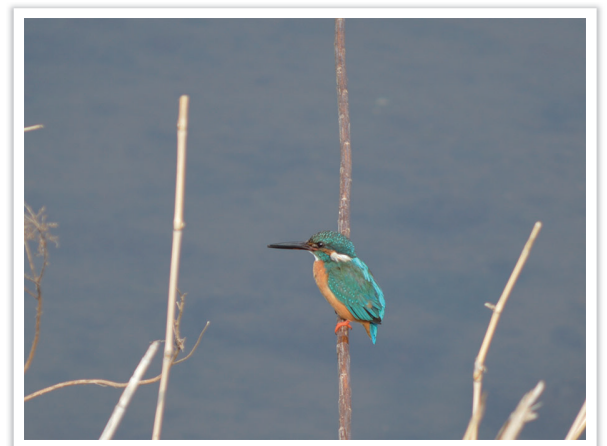
金環日食 鈴木恒さん



柿田川湧水群 大山雄太さん



屋久島の登山道より
 水の循環～バイオトイレ
 石川潤さん



家の近くのカワセミ 岩井芳典さん



環境との繋がり / あなたにとって環境とは？ 後輩編



世界全体の環境
分析技術グループ
井上 早紀

私にとって環境とは自身の周りのすべてを指し、山や川などの自然だけを指すものではないと思っています。今、世界では日本が昔陥った公害問題に直面している国が多くあります。そういった国々に情報を伝えていくことで世界全体における“環境”の力になっていければと思います。



人間と環境
調査第二グループ
小澤 絵奈

環境は、人間が影響を与えそして与えられるすべてのものだと考えています。人間は、今まで環境にさまざまな影響を与え、今は修復しようと取り組んでいます。自然環境や作業環境などの環境自体ではなく、人間がその中にもいることも含めて“環境”なのだと思います。



体に入るものの環境
調査第一グループ
柴田 将司

環境問題は、近年は地球温暖化や異常気象など、ビッグスケールな物が話題になりがちですが、私は直接体内に入る水・空気・食べ物についても興味があります。それらの環境は人の健康に直接関わるものであり、勉強のしがいがあります。



人が健康に暮らす環境
営業グループ
秦 彩音

環境と一言に言っても捉え方や重視することは、人によって様々なものがあると思います。私が特に興味を持っているのが、人が生活する場所の環境です。人が健康に暮らせるよう身近な環境を守ることを通して、その先にある地球環境を守ることに貢献したいです。



**理科と社会が
つなぐ環境**
分析技術グループ
林 千優

私が子どもの頃に好きだった科目は理科と社会科でした。社会科が環境問題を知るきっかけになりました。大学の講義の中に環境分析化学という科目があり、「これだ!」と思いました。環境は理科と社会科が繋がっているものなのです。



人間と環境の関係性
分析技術グループ
山岡 佑多

私はもともと山や川、海で遊んだりそこにいる生き物と戯れたりすることが大好きで、より自然について学びたいと思い環境系の大学に進学しました。人間と環境の関係性をよりよくできるような環境との絆について、どのようにアプローチしていけばよいのかを考えています。

仲間のわ

親睦会

@ O-smi



親睦会委員 調査第一グループ 佐々木 瑠花

本社・支店・所属グループといった社員同士の小さな「わ」を広げ、オオスミという大きな「わ」を作り上げるため日夜活動に取り組んでいます。主なイベントとしては、新入社員の歓迎会、社員旅行、暑気払い、忘年会等を行っています。



フレンチな忘年会♪

日頃マジメなので無礼講ってヤツですね!



2017年 社員旅行

午前中は養蜂場!
間近でみる蜂の巣に興味津々・・・
午後! 鋸山の山頂まではサンダルじゃ
厳しかった・・・(汗)



2016年 社員旅行

ワイン工場見学!
自分でボトルに入れたワインはお持ち帰り♥



新入社員歓迎会!

まだ慣れなくてドキドキだよな・・・
去年を思い出して、なぜか私もキンチョー(笑)

オオスミの働く環境

オオスミでは働く環境の改善を目標として、いくつかの取り組みを行っています。

働きやすい環境を目指して

研修の実施

管理職向けの研修

外部から講師を招き管理職向けの研修を行いました。管理職としてチームの成果を上げるためメンバー育成に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ機会となりました。

女性社員向けの研修

女性社員を集め女性社員向けの研修も行いました。女性目線でのキャリアや日々の業務の効率化を図る知識とスキルを学ぶ機会となりました。

制度の導入

働き方の多様化に対応すべく、オオスミでは以下の制度を導入いたしました。

育児休業規則の改正

子どもが就学するまで終業時間の短縮が認められます。

有給休暇を積立できる制度

病気/育児/介護のために消滅する有給休暇を積み立てできるようになりました。

有給休暇の半日単位での取得可

有給休暇を半日単位で取得できるようになりました。

ワークライフバランス

残業時間の削減

働く環境改善活動の一つとして、残業の削減に取り組んでおり、ノー残業デーを実施しています。しかし全社で一斉に実施するのは難しいため、各グループで実施しやすい方法を考えています。



深夜に及ぶ残業や徹夜での作業、休日出勤は、辛かっただけでなく、そこから得るものもあったと思う。

順番に「残業をしない日」を決め、協力し合って各自が毎月決まった日数のノー残業デーを実施しています。

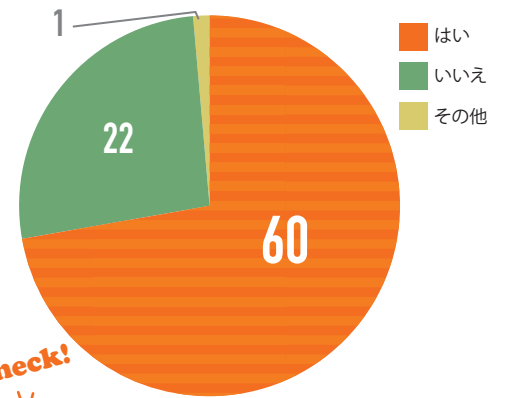
14時に繁忙度を共有し、手が空いている人がフォローし合い残業時間削減の協力体制をとっています。

ある日を残業なしとするためには、当日になる前から仕事の段取りや周囲への協力依頼等が必要だからね。それらの訓練も兼ねているよ!

Point!

オオスミが取り組むワークライフバランスは、仕事と生活の調和を目指し、仕事で自己実現をし、経済的に生活を支え、さらに仕事を含めた生活を充実させる努力をするということです。そして、全社員がそれを実現するためお互いに助け合うことだと思います。

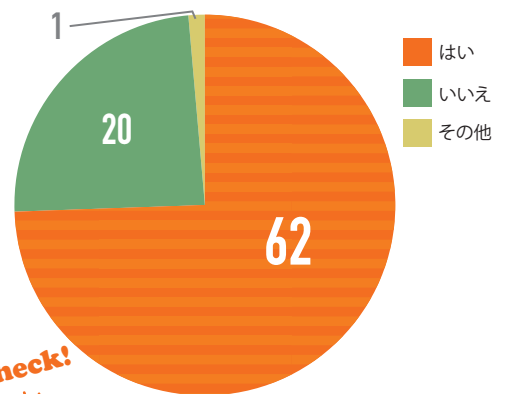
社内に頼れる人・相談できる人がいますか?



Check!

多くの方が信頼できる方がいるようです。

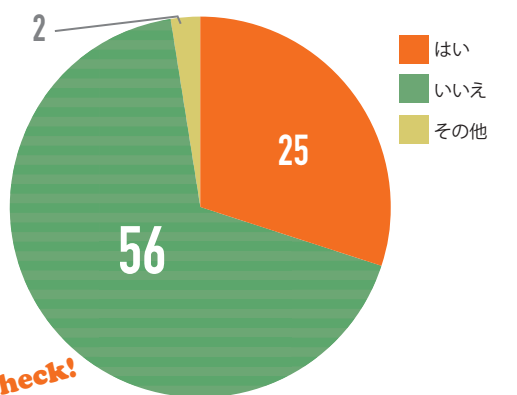
社内の人と飲みに行きますか?



Check!

プライベートでも親交を深めたい方が多いようです。

現在と違う部署で働きたいですか?



Check!

多数の方が今の部署で長く働きたいと思っているようです。また、新しいことに挑戦したい方もいるようです。

科学コーナー ★ プチ講座

分析技術グループ 三堀 利幸

ベンゼン「環」のお話



化学式(構造式)のことを「亀の甲」と呼びますが、典型的なものが、ベンゼン「環」です。6個の炭素が正六角形の環状に結合し6個の水素を含みます。まさに、亀の甲型です。そして、これらが2つ繋がったものがビフェニル。化学式はC₁₂H₁₀です。

このなかの水素(H)が塩素(Cl)に1個から10個置き換わっ

た化合物を考えることができます。化学式はC₁₂H_{(10-n)Cl_nで10種類、置き換わる位置の違いで構造式は209種類が考えられます。この違いで構造式は209種類が考えられます。この209種類の化合物をポリ塩化ビフェニル(PCB)と呼んでいます。}

この物質は熱に対して安定で、電気絶縁性が高く、耐薬品性に優れているため、変圧器やコンデンサーの絶縁油、可塑剤、塗料など、幅広い分野で使用されていました。しかし、次第に毒性が明らかになり、国内では1975年に製造及び輸入が禁止されました。

何しろ安定した物質なので、環境中に蓄積することはあっても、分解されることは期待できません。水底土砂などを分析すると、生産中止されて40年以上たった今で

も検出されることは珍しくありません。

ちなみに水域の環境基準は「検出されないこと」です。私は昭和59年4月に入社以来、今日まで、PCBの環境基準超過はみたことがありません。PCBが水に溶けにくい物質であるためです。

最初は重宝されていたのに、いまではすっかり厄介者扱いとなってしまったPCBですが、オオスミでは、絶縁油PCB分析、微量PCB分析からPCBの処分のお手伝いまでを行っています。

HPにも各種情報を載せています。ご参照ください。

オオスミの取り組み ボランティア活動



外周清掃

毎週1回本社の外周清掃を実施しています。地域住民の一員として、よりよい環境づくりに貢献したいと考えています。

エコキャップ運動

エコキャップ運動にも積極的に取り組んでいます。2016年3月より活動を開始し、エコキャップ累計約16,000個、ワクチン約31人分になりました。環境負荷低減への取り組みと、社会貢献活動が一体となった大切な活動です。



プロボノ活動 @濱橋会

環境分析の専門技術で社会に貢献するプロボノ活動（専門性を活かしたボランティア活動）を行っています。当社が参画している横浜都心部のまちづくりNPO法人HamaBridge濱橋会の「大岡川の水を徹底的に綺麗にするプロジェクト」では定期的に水質調査を行い、勉強会で環境調査・分析に関する講師を務めるなど、環境改善の「わ」を広げる活動を行っています。



目黒町公園の清掃活動

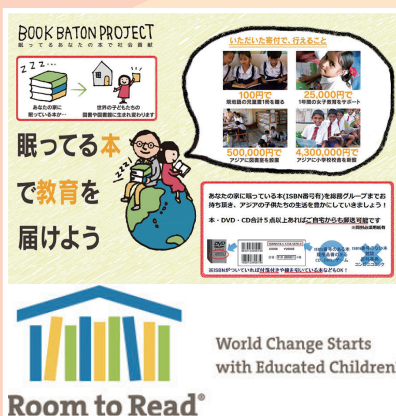
本社前にある目黒町公園の草刈りと清掃活動を行っています。ひと月に1週間清掃の週を決め、昼休みの時間を使って活動しております。2016年9月には年に一回の大清掃ということで草刈り機も使ってみっちり活動しました！



草刈り成果 /



清掃時いた仔猫 (親がいなかったため社員に引き取られました。)



ブックバトンプロジェクト

ブックバトンプロジェクトに参加しています。ブックバトンプロジェクトとは、本などのリユースを通じ、眠っている本をバトンのようにつないで世界の子供達の本に生まれ変わらせるプロジェクトです。世界の子供にも教育を届けるといふ、大変有意義な活動です。

グリーンカーテンの設置

夏季の省エネのためグリーンカーテンを設置しています。育った野菜たちは従業員が美味しくいただいています。



グリーンカーテンと巣箱についてはオオスミホームページ内のブログで詳しく紹介があります！ぜひご覧になってください。



巣箱の設置

本社付近に生息する野鳥のため、巣箱の設置を行っております。主にシジュウカラが巣箱を利用しています。



都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト

東京2020組織委員会が行っている、使用済み小型電子機器等からオリンピック・パラリンピックのメダルを製作するというプロジェクトに参加しました。



昔の携帯電話など、思い出が詰まったものもありましたが、アスリートを応援するためと、みんなで持ち寄り、回収場所に届けました。

科学コーナー★オオスミクイズ

わの器具・装置

Q1

写真は、ある調査で使用する機材です。白い円板が3本の紐で支えられており、さらにその下に鉄の錘が吊り下がっています。さて、どのような調査で使用するのでしょうか？



1. 水質調査で透明度を測定するために用いる。
2. 水質調査で物が流されないようにするため、且つ採水地点の目印として使用する。
3. 鳥の餌台

Q2

写真はロータリーエボレーター（減圧留去）という装置です。矢印の部分（受器）はなぜ球状なのでしょうか？



1. ガラスを膨らませたときに丸くなるため、加工費を削るため、そのままにしている。
2. 内圧と外気圧の差で割れないように球状にしている。
3. 見た目も愛らしく、好感の持てるガラス器具にしている。

News 01

オオスマニユース

税研実務セミナーで講師を行いました!

2017年8月30日、『株式会社税務研究会』が主催する「資産除去債務の調査実態と会計・税務の基礎」セミナーにて、弊社取締役高羽泰久が講師を行いました。



このセミナーは各企業の経理部や経営企画部等を対象に、資産除去債務の基本的な内容、最新の法令改正等を含めた法的規制、環境リスクに関わる調査・対策に関する実務や注意点、資産除去債務に関する会計処理・税務処理について解説したものです。

高羽は、第2部「土壌汚染・PCB・アスベストの法令改正を踏まえた法的規制と調査・対策に関する実務」についてお話をさせていただきました。

今後もオオスマニでは、お客様から寄せられるさまざまなご要望に加え、環境教育にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

ベトナムに駐在所を設立します

2017年9月、オオスマニはベトナムに駐在所を設立することを最終決定しました。場所はベトナム国中部にあるダナン市となり、2018年4月に開設できるよう手続きを進めています。2018年以降、この駐在所を中心に海外ビジネスを進めていくことを想定しており、具体的には「省エネ」「環境保全」「労働衛生※1」などのサービスを提供する予定です。

ベトナムでは急激な経済発展に伴い、省エネや環境への対策が必須となっており、オオスマニはそのニーズに応え、専門的な協力をおこなっています。

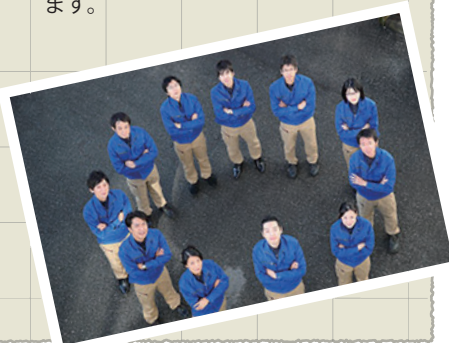


※1：オオスマニには、国際的な資格である『オキュペイショナルハイジニスト』資格取得者が在籍しています

編集後記

最後までお楽しみいただけましたか?

「伝説のイヤブック」を作ることを目標に、編集委員一丸となって取り組みました。みなさまのご協力に感謝いたします。



株式会社オオスマニ

本社
〒246-0008
横浜市瀬谷区五貫目町20-17
TEL **045-924-1050**

東京支店
〒101-0064
千代田区猿樂町2-1-14 A&Xビル5F
TEL **03-3219-5021**

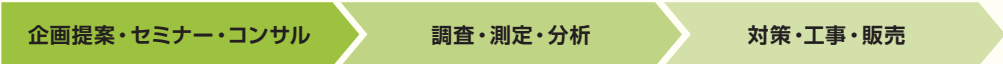
Oosumi Service オオスマニサービス

私たちは地球環境を見守るプロフェッショナルです。

調査、測定、分析、コンサルティング、対策。確かなプロセスを踏み、あらゆる環境問題への答えを探ります。



膨大なソリューションで、地球環境を見守ります。
5つの「事業分野」に対し、「企画提案、セミナー、コンサル」「調査、測定、分析」「対策、工事、販売」という3つの段階でアプローチ可能です。



A	環境保全事業	水、土壌、大気、騒音・振動、アスベスト、PCB等
B	労働安全衛生型環境事業	作業環境測定、個人暴露測定等
C	エネルギーソリューション	地球温暖化対策、省エネ診断等
D	製品・材料試験事業	材料・異物分析、受託・研究、ゆあらぼ、こらぼ等
E	環境関連商品等販売事業	化学工業薬品、環境関連商品、省エネ対策商品等

すべての事業分野における膨大なソリューション。これはオオスマニが培ってきた強みです。

2018年、オオスマニは多くの皆さまから支えられて創業50周年を迎えます!

★オオスマニクイズ答え

Q1 正解は 1

水の透明度を測るために使用します。正式名称は「透明度板」若しくは「セッキー板」と呼び、下の写真のように、この白い透明度板を水に沈めていき、見えなくなった深さがその水の透明度となります。透明度板のもうひとつの呼び名である「セッキー板」とは、考案者であるイタリアの天文学者の名前が由来となっているとのことです。



Q2 正解は 2

ロータリーエバポレーターは、PCBや農薬分析などで試料を濃縮する工程で使用されます。濃縮する溶剤を入れたナス形フラスコを温浴中で回転させつつ、フラスコ壁面に液膜を形成させながら気化させます。気化した溶媒は冷却装置によって凝集され、溶液に戻り、受器へ留まる仕組みです。このとき、ポンプで装置内を陰圧にして、溶媒の沸点を下げて気化効率を上げているのですが、装置内が減圧に対し、外気圧が加わるとガラスが割れてしまいます。気圧が均等になるように受器は球状に作られています。

? オオスマイルって?

o-smile は造語ですが、分解すると『o』と『smile』に分けられます。この『o』は株式会社オオスマニの頭文字。『smile』は字のごとく笑顔です。Oのsmile、つまり私たちオオスマニで働く人間は、常に心に笑顔を持っていたいと思う心からこのような名前にしました。

